

全42室に飲食オーダー端末を設置 オーダーの効率化とサービス向上を目指す



▲カラオケ&ダーツ
SALA多摩センター店
店長 畑中晴順氏

導入実績と信頼性の高さから スーパースターシリーズに決定

京王線・小田急線多摩センター駅前の大型商業施設「マグレブ」の地下1階で2005年から営業を行なう「カラオケ&ダーツ SALA多摩センター店」。カラオケ42ルームとダーツ7台で営業を行なう大型店だ。経営にあたるのは、同ビルのオーナーで不動産事業やレジャー事業を展開する(株)ユニカ。カラオケ事業については同店1店舗のみでの展開だ。

同施設がスターランドの「スーパースター」シリーズのPOSシステムとセルフオーダー端末を導入したのは2019年9月。その理由について、店長の畑中晴順氏は次のように語る。

「タブレット型のオーダー端末を導入したいというのが、そもそもの経緯でした。当店では、インターフォンで飲食オーダーを受け付けておりましたが、タブレット型のオーダー端末が外食産業でも普及しつつあり、当店でも飲食の受注業務の効率化を図りたいと考えていました。すでにカラオケの選曲ではタブレット端末を使用しているので、お客さまに抵抗感なくご使用していただけるだろうと思

いました」。

そして、もうひとつの狙いが飲食の売上げアップだ。カラオケルーム42室とダーツ7台という大型店であるため、繁忙期には2台の受話器では到底対応できず、オーダーの取りこぼしを実感していた。オーダー端末の導入にあたっては、それまで使用していたPOSシステム会社のタブレットも候補にあがったが、最終的にスターランドの端末に決定。カラオケ全室とダーツ台にも設置し、計49台を導入した。

「オーダー端末の導入にあたって重視したのは、タブレットの耐久性、頑丈さでした。もう1社のタブレットは厚さが薄く、テーブルから落ちたら故障してしまうのではないかと心配でした。それに比べて、スターランドさんのオーダー端末は厚みがあり、テーブルに置いても非常に安定感があります。導入実績も多く、信頼性も高いので導入を決めました」。

実際、オーダー端末を導入したことで、飲食の売上げは約5%上がっている。スーパースターシリーズのオーダー端末はメニューの入替え作業が容易なので、シーズンごとにメニューを工夫し、売上げ10%増を目指すという。

会員カードを原則廃止し 静脈認証システムを導入

POSシステム、セルフオーダー端末に合わせてスターランドから導入したのが、静脈認証による会員管理システムだ。つまり会員カードのペーパーレス化である。会員のなかにはカードを忘れてくる客がいて、その都度、モニター画面で検索しなければならず、受付業務の負担になっていたという。

「当初は、静脈認証に対し拒否されるお客さまが多いのではないかと懸念していました。しかし、静脈認証による会員登録をすませば、カードを持ち歩かなくてよいというメリットを説明すると、みなさん非常に協力的でした。現在、すでに約5,000人の方が静脈認証による会員登録を終えています」。

オーダー端末、静脈認証システムの導入は、スタッフの業務軽減が大きな目的で、それによりスタッフの削減を目指しているわけではない。システム機器を積極的に活用することで業務の効率化を図り、そのぶん、清掃や接客サービスの向上につなげたいというのが畑中店長の狙いである。業務効率化とサービス向上の両立には、最新鋭システムの導入が避けて通れない時代となっているのである。



▲カラオケルームとダーツすべてにセルフオーダー端末を設置



▲静脈認証システムを導入し、受付業務の効率化も実現

「スーパースターシリーズ」 とは

(株)スターランドが開発・販売するPOSシステム「スーパースター」シリーズは、カラオケボックスのほか、複合カフェ、温浴施設、飲食店など各業界向けバージョンがラインナップされ、その導入施設から高い評価を受けている。

問い合わせ
(株)スターランド

【本 社】静岡県藤枝市青木3-14-1

【東京オフィス】東京都千代田区神田鍛冶町3-7-21

【大阪オフィス】大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-24

☎ 0120-007-009

FAX ▶ 054-644-5034

URL ▶ <http://www.starland.co.jp>